

研究課題 (テーマ)	地域高齢者を対象とした認知症の人とのコミュニケーション技法に関する研修方法の検討		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	富山県立大学・看護学部	助手	堀田 美沙
分担者	富山県立大学・看護学部	講師	鷺塚 寛子
	富山県立大学・看護学部	助教	岩崎 涼子
	富山県立大学・看護学部	教授	岡本 恵里
研究結果の概要			
<p><b>【背景】</b></p> <p>在宅介護において認知症高齢者の家族介護者は、罪悪感や自責の念などの心理的負担を感じているが、この要因の一つに、認知症高齢者と家族介護者とのミスコミュニケーションがある。心理的負担感を軽減するためには、コミュニケーションを軸とする介護力を引き出し向上させていくことが不可欠であると指摘されている。しかし介護力向上に向けて、時間的余裕がない家族介護者が研修などに出向くことは現実的には難しい。そのため、将来介護者あるいは要介護者になり得る、一般高齢者を対象とした介護力向上への支援が必要である。</p> <p>高齢者を対象とした介護に関する研修は自治体を中心に行われているが、それらは介護技術に焦点を当てた内容が主であり、本研究において重視している“対人関係”の技法を組み込んだ研修は少ない状況にある。そうした中で、福岡市において2016年より認知症家族介護者向けに、フランス発症の介護技術「ユマニチュード®」を学ぶ研修会が開催されている。</p> <p>ユマニチュードは病院や施設の現場で注目・期待されている対人関係を重視した技法であり、この技法の効果は、京都大学、九州大学の研究者らで進められている。また、本学においても、看護学部と工学部との看工連携研究により検証が進められている。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>本研究ではユマニチュードによるケア技法の効果をもまえ、地域で生活する高齢者を対象としたコミュニケーション技法に関する研修方法を検討する。</p> <p><b>【方法】</b></p> <p>① 富山県内に在住する65歳以上の100名を対象とした、認知症の人の介護に関する困り事や、介護に関する学習ニーズの自記式質問紙調査</p> <p>② 認知症の人とのコミュニケーション技法に関する研修希望者20名を対象とした2時間の集合研修（講義・実技）</p> <p>③ 研修4ヵ月後に研修参加者を対象とした、研修会での学びを活かした経験や認識の変化などの追跡自記式質問紙調査</p> <p>※①②を2月～3月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中断している。</p>			
今後の展開			
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の行動制限の状況を把握し、対面での研修が実施できるような状況が整ったところで、研究を再開する。計画したデータ収集を終え次第、分析を進めていく。得られた成果は、学会発表や論文投稿していく。</p>			